

西国三十三霊場巡りマラニック 第十三番 石光山 石山寺

十九年十月九日

フル百回楽走会

593

武藤 翔峰

東大寺の大仏鑄造のための黄金を得るために、聖武天皇は良辨僧正に祈願を命じた。比良明神のお告げに基づき、良辨僧正が石山の霊地で祈願を行ったところ、陸奥の地で黄金が発掘されたという。天平勝宝元年(749年)に良辨僧正はこの地に石山院を設けたといわれており、これが石山寺の創始と伝えられている。宗派は、東寺真言宗大本山、本尊は二臂如意輪観世音菩薩。石山寺の境内入り口に当たる山門は「東大門」と呼ばれ瀬田川に面して建てられており、古寺にふさわしい堂々とした造りで重要文化財に指定されている。広場の西側のやや高い場所に、舞台造りの「本堂」が建てられている。今から約千年前の寛弘元年八月、紫式部は名月が湖面に映る景色を見て構想の赴くままに筆を採ったのが「源氏物語」であるという。時間の関係で30分くらいで参拝を済まし、来た道を戻り、瀬田の唐橋、湖岸道路を経て43km先の長命寺に向って走り出した。

